

くすっ子



鴻巣市立屈巢小学校
学校だより
令和4年11月2日

《花いっぱい 夢いっぱい 笑顔いっぱい 屈巢小》
花をさかせる学校・夢をはぐくむ学校・笑顔あふれる学校

修学旅行の恩送り

校長 諏訪 健

稲刈り後の野焼きのにおい、晩秋の気配を感じる時季となりました。

今週の月曜日・火曜日は、6年生の修学旅行でした。天候にも恵まれ、小学校最大の思い出を6年生の児童は、つくることができました。

10月31日（月）、朝6時50分に学校を出発。圏央道を南下し、鎌倉の鶴ヶ岡八幡宮へ。大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の効果なのか、月曜日にもかかわらず一般の方の参拝が、多く感じました。その後、鎌倉の大仏見学・江ノ電の乗車（長谷～江ノ島間）・新江ノ島水族館見学・江ノ島海岸での浜辺遊びをした後、夕闇迫る中、芦ノ湖湖畔の宿に到着しました。宿では、夕食はもちろんのこと、気持ちのよい温泉、夜のレク大会の会場準備等々、翌朝の出発までの間、最大限のおもてなしをしていただきました。

2日目、11月1日（火）は、ベテランガイドさんの引率の元、旧東海道の散策、箱根の関所見学、芦ノ湖の遊覧船に乗りました。訪問先は、どこも混み合うことがなく、スムーズに旅を進めることができました。午後は、難攻不落の小田原城の見学し16時頃帰校。今年の修学旅行も、大成功だったと言える内容でした。

帰路のバスの中で私は、この2日間で6年生の児童は、どれだけの人にお世話になっているのか考えてみました。バスガイドさんや運転手さんをはじめ、児童が目にした人だけを数えても、100人位にはなるのではないかと思います。（例えば、江ノ電の運転手さんや車掌さん・遊覧船の船長さんや棧橋で船のロープを固定していた人など・・・）さらに、姿は見えないけれど、この2日間の6年生のために、努力や心づかいをしてくださっている方まで含めると、想像のつかない人数になるのではないのでしょうか。（例えば、バスや船の整備を日頃からされている方やお土産の品物を工場で作っている方・お昼に食べた鶏肉やおでんの卵を生産されている方、江ノ島の海岸の砂浜の清掃をされている方などのこと）

こうした多くの方の**努力や心づかい=恩**があったからこそ、屈巢小の6年生の修学旅行が成り立っていることに、私たちは改めて感謝しなければなりません。しかしながら、その方々に感謝の気持ちを伝える（恩返しをする）ことは、今となっては難しいことです。でも、**恩送りをする（自分が受けた恩を他の違う人に送る）**ことが、私たちにはできます。例えば、5年生以下の下級生・近所の人・家族・クラスの仲間などに向けて、相手のためになることや相手の気持ちを気づかうことです。ぜひ、6年生の児童には、修学旅行で受けた恩を思い出して、身近な恩送りを実践してほしいと思います。恩返しは、1往復で終わりですが、恩送りは、無限に広がっていきます。

前日までの準備、そして出発と到着の際には、保護者の方々に大変お世話になりました。ありがとうございました。その恩送りを私も、日々の仕事の中でできるように努めます。



江ノ島海岸で波と戯れる6年生



11月4日（金）より、原則、毎週金曜日にフッ化物洗口を開始します。1時間目の前に実施しますので、登校前の家庭での歯みがきをよろしくお願いいたします。